



創立 60 周年記念 特別研究プロジェクト I

メディア活用研修モデル事例の調査研究

平成 26 年 5 月 1 日

全国視聴覚教育連盟



目次

I 調査研究のねらい	2
II メディア活用のための研修事例	3
○メディア教育の課題解決とICTの効果的な活用に関する研修	3
○市民の参画・市民との協働による「メディア研修事業」	6
○教職員の学ぶ意欲に応える「教職員対象研修」	9
○学び続ける市民を養成する「市民映像セミナー」	13
○地域ネットワークやコミュニティづくりを目指した「ソーシャルメディア研修」	17
○文化遺産を継承し未来を創造する「地域映像デジタルアーカイブ研修」	19
○研修モデルの紹介「モバイルメディアに関する研修プログラム」	21
III 調査研究のまとめ	22

◇全視連特別プロジェクトI 担当者

(執筆順／所属は平成26年3月現在)

- 丸山裕輔 (全視連専門委員 新潟県五泉市立五泉東小学校教頭) : 主査
- 中條専一 (全視連専門委員 千葉県総合教育センター研究指導主事)
- 鷲林潤壱 (全視連専門委員 埼玉県春日部市視聴覚センター指導主事)
- 照井 始 (全視連副専門委員長)

I 調査研究のねらい

本調査研究は、全国視聴覚教育連盟創立 60 周年記念事業として取り組んだものである。そのねらいは、高度情報化社会における ICT（情報通信技術）に対応した生涯学習におけるメディア活用のための研修モデル事例集を作成し、それを全国の視聴覚センター・ライブラリーに周知することである。視聴覚センター・ライブラリーが、地域のメディアセンターとして市民に対してアクションを起こせるような指針を目指した。研修プログラムが総花的にならないように、実際に行われているモデルとなる好事例や特色ある取組をまとめることを、本研究の主眼とした。地域住民を対象としたいわゆる社会教育・生涯教育はもちろんのこと、学校教員対象の研修も教師の学び続ける生涯学習の領域として、本調査研究の事例の中に取り上げている。

本研究でいうメディアとは、従来の視聴覚メディアである映写機やビデオカメラといったものから、コンピュータやインターネットといった ICT メディア、近年脚光を浴びている SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）といったソーシャルメディアまで、広範囲に広くとらえている。伝統的な映像メディアは、未来を担う子どもたち、現代社会を支えている成人の情意面に影響を及ぼす。他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性を育む上で、映像の教育力は重視する必要がある。また、ICT やソーシャルメディアを、研修の対象とすることは、「情報リテラシーに関する学習、デジタルデバイスへの対応や有害情報対策等、多様な学習内容を提供する必要がある」（中央教育審議会、2008）からである。

本調査研究では、全国視聴覚教育連盟の専門委員にご尽力いただき、研修モデルとなる 7 事例を集録した。その中の 6 事例は、千葉県総合教育センター、千葉市生涯学習センター、春日部市視聴覚センター、新潟県立生涯学習推進センターで行われているメディア研修プログラムを紹介している。そこでは、研修のねらいや内容を記述するとともに、研修の成果まで触れるように心がけた。モデル事例の最後には、現在脚光を浴びているモバイルメディアを対象とした研修プログラムを、専門委員で想定し考案したものを加えている。メディア研修プログラムの紹介や考案に際し、ある程度の統一性をもたらすために、先行研究である「『視聴覚メディア研修カリキュラムの標準』の改正に関する調査研究報告書」（日本視聴覚教育協会、2005）を参照した。

メディアの進展が急激な現代社会にあって、視聴覚センター・ライブラリーの機能や役割が問われている。そのような状況にあって、本調査研究が、視聴覚センター・ライブラリーのこれからの研修プログラムの立案や実施に少しでも寄与することを願っている。

次章から、メディア活用の研修モデルを事例ごとに紹介していく。

<引用参考文献>

日本視聴覚教育協会（2005） 「視聴覚メディア研修カリキュラムの標準」の改正に関する調査研究報告書。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/media/06112105.htm

中央教育審議会（2008） 新しい時代を切り拓く生涯学習社会の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～（答申）。

（新潟県五泉市立五泉東小学校教頭 丸山 裕輔）

Ⅱ メディア活用のための研修モデル事例

本章では、メディア活用研修モデルの事例として、そのプログラムのねらいや内容について述べていく。今回の調査研究では、全国視聴覚教育連盟の専門委員が所属するセンターや過去に在籍したセンターを主に取り上げ、メディア活用のための研修事例として紹介する。そこには、視聴覚センター・ライブラリー特有の機能を生かした具体的な方策が、プログラムに盛り込まれている。

メディア教育の課題解決とICTの効果的な活用に関する研修 ～ メディア教育の今日的課題の理解と指導者の育成を目指して ～

1 はじめに

千葉県では、昭和58年に総合教育センター及び視聴覚センターの在り方が検討され、千葉県総合教育センターに、視聴覚センターが併設された。そして、生涯教育の観点に立った社会教育の充実・振興に資する社会教育部の設置により、名実ともに総合教育センターとしての業務を開始した。

平成19年には、視聴覚教育・情報教育を担当するメディア教育班が設置され、県内の視聴覚教育の振興に資する事業を行っている。そこで、メディア教育を研修対象とする研修プログラムを紹介する。

なお、千葉県総合教育センターは、教育に関する調査研究及び教育関係職員の研修を行うとともに、県民に対し、教育に関する奉仕を行うことにより、千葉県の教育の振興に資することを目的としている。



千葉県総合教育センター
メディア教育棟

2 研修のねらい

メディア教育に関する基本的な知識と技能を習得するとともに、ICT機器・教材の活用について、広い視野から専門的な研修を行うことで、メディア教育の今日的な課題を理解し、視聴覚担当者や指導者の養成を図る。

3 研修の内容

県内では、各地域の視聴覚ライブラリー・センターが2年ほどで半減している。情報通信技術が急速に進歩していく中で、県としては、メディア教育の充実や日々発展するICT機器の有効活用、さらには、各地域に保存されている貴重な映像（フィルム）の対応等について、各地域の視聴覚教育を支援する立場で知識・技能の習得に必要な研修プログラムを作成している。



最新のパソコンルーム
タブレットPCの活用

（1）ICT活用研修（1）（ICT機器と教材の活用）

幼児・学校・社会教育・行政関係者を対象として、メディア教育に関する基本的な知識と技能を習得し、ICT機器・教材を実際に即して適切に活用できるようにするため、下記の内容で1日の講座を行っている。

重点的な取組としては、①最新のICT機器の有効活用やデジタルコンテンツの有効活用ができるようにする。②16ミリ映写機の操作講習会を行い、適切に活用できるようにする。

表1 ICT活用研修（1）の内容

NO	研修テーマ・講師・時間	研修内容
1	「メディア教育に関する基本的な知識と技能を習得とICT機器・教材の有効活用」 <実習Ⅰ> 所員 (3時間) ICT機器の活用 ・電子黒板 ・タブレットPC ・iPad ・実物投影機・プロジェクター等 <実習Ⅱ> デジタルコンテンツの活用 ・NHK学校放送番組 ・電子教科書 ・デジタルコンテンツ <講義> ひかり映画社 (3時間) 16ミリ映写機操作講習(1) ・概論 ・操作方法と映写 <実習Ⅲ> 16ミリ映写機操作講習(2) ・16ミリ映写機の操作 ・16ミリ映写機操作テスト	視聴覚機器の操作やデジタル教材の基礎的な知識の習得 ・実習内容は、16ミリ映写機の操作講習、Windows8 タブレットコンピュータ活用、iPad 活用、電子黒板やプロジェクターの基本操作等 ・デジタル教材は、デジタル教科書やNHK学校放送番組等を紹介しながら、電子黒板を活用した実習  デジタルコンテンツ紹介  16ミリ映写機講習会

(2) ICT活用研修（2）（メディア教育とICT活用の実践）

情報モラルや著作権、最新の情報通信技術に係る講義とともに、最新のICT機器・教材の活用について、広い視野から専門的な研修を行う。そして、メディア教育の今日的な課題の理解とともに指導者としての資質向上を図る。重点的な取組としては、メディア教育の現状とICTの効果的な活用について講義や実習を通して理解できるようにする。

表2 ICT活用研修（2）の内容

NO	研修テーマ・講師・時間	研修内容
1	<講義> 県環境生活部 (3時間) 青少年のネット利用 (ネット・トラブル) <講義> 千葉大学附属中学校教諭 メディア教育と情報モラル <講義・実習> 東北学院大学准教授 ICTを活用した授業の創造 ・ICT活用の現状と効果的な活用 ・実践事例研究 (3時間)	視聴覚機器や教材の専門的な研修を実施、指導者としての知識や技能の習得 ・県内の子どものネット利用の現状と問題点についての講義 ・情報モラルや情報セキュリティについて、家庭、学校、社会が抱える課題と対応のあり方についての講義 ・著作権法の改正に伴い、留意すべき点についての具体的事例を踏まえた講義 ・ICTを有効活用した授業の創造、授業デザイン作成など、実践に即した演習
2	<講義> 日本映像ソフト協会 (3時間) 著作権 ・著作権の基礎、教育と著作権法 ・著作権に関する動向 <講義> NHKデジタル教材制作担当 NHK学校放送番組 ・デジタル放送、教材の効果的な活用 <講義> 千葉大学教授 (3時間) 視聴覚教育と情報通信技術 ・新しい教育メディア、視聴覚教育の現状	・NHKデジタル教材の紹介をもとに、様々なデジタルコンテンツの体験 ・情報通信技術の現状・課題、教育現場でのICT活用について講義を行う。  NHKデジタル放送紹介  ICTを活用した授業の創造

＜受講者の感想や意見＞

- ・日頃、限られた時間の中で、慣れない機器を準備したり、使い方を調べたりする時間がないので、今日1日完璧に準備された機器を使ってアイデアを試したり、講師の先生方に即座にご指導いただくことができたのは、大変有意義でした。技術がどんどん進む中で、古いものの良さも実感できた。
- ・16ミリ映写機の操作は良い経験になった。また、最新のICT機器まで幅広く学べることができた。視聴覚教育と情報通信技術の講義は、メディア情報リテラシーに対して深く学習することができた。また、NHK学校放送番組の講義は、様々なアプローチで番組制作していることを認識した。

（３）成果と課題

県総合教育センターでは、学校関係者を対象にした情報教育に係る研修を26講座、年間1000名以上を対象に実施している。そのうち、生涯学習・視聴覚ライブラリー・公民館等の行政職員対象には5講座実施している。受講生からは、メディア教育に係る最新の情報提供や様々なICT機器の操作体験の機会が得られることで好評を得ている。今後も受講生の要望に応えられるように、講義や演習内容、学習形態の工夫など、より充実した研修プログラムを検討する。



ICT 体験ルーム

4 今後の方向性

急速に進歩する情報通信技術と様々な課題を抱えた情報化社会にあつて、各地域の情報教育に係る指導者の育成は急務である。今後は、各地域の学習の場の充実や各地域のネットワーク・コミュニティの形成が課題となる。県としては、各地域の視聴覚ライブラリーの有用性、学習効果をより高め、生涯学習としての視聴覚ライブラリーの専門性とノウハウ、発信力を高める支援を行う。



千葉県総合教育センター

（千葉県総合教育センター研究指導主事 中條専一）

市民の参画・市民との協働による「メディア研修」 ～ 学び合い、支えあい、地域が輝くまち、千葉市を目指して ～

1 はじめに

千葉市は、平成5年に「千葉市生涯学習推進基本構想」を策定、施設整備についての基本的な考え方について協議・検討を重ね、「中央図書館」「生涯学習推進センター」「視聴覚センター」の各機能を持つ複合施設を平成13年4月にオープンした。なお、視聴覚センター機能は「視聴覚ライブラリー」として生涯学習センターが管理・運営することとなった。

以来、生涯学習センターは市民の生涯学習及び交流の場を提供するとともに、生涯学習活動を総合的に支援し、千葉市における生涯学習の振興を図るための中核施設として各種事業を展開している。



千葉市生涯学習センター

2 生涯学習センター・視聴覚ライブラリー事業（主な業務内容）

千葉市では、「市民相互のふれあいによる学習活動を通して、新たな可能性と価値を生み出す地域づくりを推進する～学びあい、支えあい、地域が輝くまち、千葉市を目指して～」を目標とし、市民の学びが生きる地域づくりや多様な主体の連携を進める施策を展開している。

生涯学習センターが、これまでの視聴覚センターの機能を生かした各種研修会や講座を実施、視聴覚ライブラリーが視聴覚教材・機材の貸出や映画上映会、学校の教育活動との連携などを行っている。

そして、生涯学習の観点から、市民の学習意欲を喚起する学ぶ場を提供し、また、市民一人一人の持っている知識を他へ広げるための教える場を提供している。こうした学ぶ場と教える場を設定して、市民に紹介、市民が運営に関わっていくことを大切にしている。現在の急速に進歩する情報化社会にあって、多様化する市民ニーズに応えるため、ボランティアを活用した様々なメディア教育の事業を行っている。

3 学ぶ機会の提供と支えあう環境づくり

（1）メディア学習事業

市民を対象として、パソコン講座、パソコン相談会などの学びの場を提供している。センターで開催するパソコン講座年間120講座のうち30講座と、相談会は施設ボランティアにより企画運営され、市民の生きがいづくり、社会参加、仲間づくりの充実に貢献している。あわせて、施設ボランティアの学習活動実践の場となっている。また、センターが企画を募集し採用した、市内活動団体による市民自主企画講座も8講座あり、これらの団体の活動を支援している。



パソコン講座

①事例1 ボランティア（まなびサポーター）によるパソコン講座のねらい

ボランティアの参画、市民との協働を推進するため、学習活動の場を提供し、市民同士の相互学習を促し、さらに、市民自身が学習プログラムを企画することで一層の学習活動の発展を図る。

表3 パソコン講座の研修内容の例

NO	研修テーマ・ねらい・時間	研修内容
1	初心者のための Windows 7 パソコン入門 パソコンを初めて使う方にピッタリの入門講座。パソコンの立ち上げ方から、マウス操作、文字の入力方法、簡単な文章の入力、編集及び装飾の仕方、ホームページの検索・閲覧、メールの送受信を学ぶ。 ＜7日間＞	1 パソコンの基礎 マウス操作 2 文字入力・変換 3 文章入力 4 文章編集・装飾 5 ホームページ検索・メール
2	「はじめてのワード 2010」 初めてワードを使う方のための入門講座。ワードの基本操作・文字入力・文書作成・表の挿入などを学ぶ。 ＜5日間＞	1 ワードを使ってみよう（文字入力） 2 基本の文書を作る 3 表やイラストを入れて仕上げる 4 写真入りの年賀状を作る 5 目を引くチラシを作る

②事例2 市民自主企画講座のねらい

市民の企画による学習プログラムで、様々な知識や技能を持った市民が学習成果を活用する市民同士による相互学習の場を設け、学習課題の発見や学習活動の発展を図る。

表4 市民自主企画講座の研修内容の例

NO	研修テーマ・ねらい・時間	研修内容
1	「パワーポイントで作る“わがまち千葉市”」 仕事や自治会の会合など、いろいろな打ち合わせ会で、パワーポイントを使って見栄えのするわかりやすい発表の仕方を学ぶ。＜2日間＞	1 画面構成 テーマ選択 レイアウト選択 テキストや画像・表の挿入 2 スライドの編集 アニメーション設定 スライド番号の設定・ノートの作成等
2	「アクセサリ・ソフトで知的に遊ぼう！」 アクセサリソフトには、便利で楽しいソフトがある。ワードパッド・電卓・手書き文字入力・Snipping Tool をとりあげ、パソコンを日常生活の中や趣味に使うことを学ぶ。＜4日間＞	1 電卓で情報漏えいに備えよう 2 手描きで活字文字の文をつくろう 3 コピペで遊び方を広げよう 4 ワードパッドとの連携で仕事を楽しく進めよう

＜受講者・講師の感想や意見＞

受講者：サポーターが親切、タイミングよく手助けしてくれる。自分のPCでインターネットができるようになった。葉書に絵を描き送れるようになった。知らない機能を学べてよかった。暮らしの中で使えそう。

講師：真剣な取り組み姿勢に驚く。理解度もよく、熱心。講師が勇気づけられる。受講者のレベル差、作業速度差、自宅にソフトがなく復習できないなどの問題点はあるが、どう工夫して埋めるかは講師の課題。欠席者に対する講座前の補習に感謝された。教えるというより共に経験し自分達のスキルアップになった。※学ぶ側・教える側、それぞれに前向きな取組が見て取れる。

（2）クラシック名画上映会・親子アニメ上映会・出前上映会

上映会ボランティアは上映会当日のサポートのほか、事前のちらしやポスター作成、上映作品の選定にも携わる。年間観客数は8,500人を数える。

＜観客・上映会ボランティアの感想や意見＞

観客：毎回、楽しみにしています。いつも、良い、ためになる、考えさせられる映画を選んでいてなあと思います。題名は聞いたことがあっても、中身が全く知らなかった映画も、ここで見ることで、映画と巡り合う縁を感じたりしています。とても上質な映画ばかりで嬉しく思っています。案内をしてくださる方も大変親切で、やさしい笑顔にも癒されます。



映画上映会

ボランティア：上映映画のちらしを作っているが、お客様に喜んでいただき、楽しい。来場者との束の間の会話、そして笑顔に、感謝の気持ちであいさつをしています。自分の知識を生かせ、好きな事をやれて満足しています。

（３）成果と課題

キーワードのひとつに「学びあい、支えあい、地域が輝くまち、千葉市を目指して」があげられる。市民一人一人の活動が活発であれば町は元気になる。本市では、様々なまちづくりの取組が展開されており、そこに視聴覚ライブラリーの有用性、学習効果が期待される。メディア学習や視聴覚教材・機材の貸出サービスにとどまるのではなく、生涯学習としての視聴覚ライブラリーの専門性とノウハウ、そして発信力をどう活かすかが今後の課題である。市民の学ぶ場、市民の知識を広げる場として、市民とともにあるライブラリーを目指し、映像文化や情報発信をより充実させていきたいと考える。

4 今後の方向性

視聴覚ライブラリー施設は、従来、学校教育との繋がりが強く、視聴覚教材を揃え、機材の使い方を教え、必要に応じて研修を行うというスタンスが支配的であった。そのため、市民が気軽に利用できる環境ではなかったと言える。これまでの経緯や事業の特性を考えると、千葉市中央図書館との複合施設になったことが、大きな要因だったといえる。認知度が高まり、施設を利用する人や相談に来る人は着実に増えている。大学、NPO法人、民間企業等と連携することにより、業務の幅も広がりを見せている。

今後は、市民の生きがいつくりの応援ができるような行政サービスをさらに進め、情報文化・映像文化の発信拠点としてのライブラリーの充実を目指したいと考える。



千葉市中央図書館

（千葉県総合教育センター研究指導主事 中條専一）

教職員の学ぶ意欲に応える「教職員対象研修」

1 はじめに

ICT活用により学力の向上が期待できることについては、文部科学省等の調査で示されている通りである。学校においては、新採用教員が増える中、全ての児童生徒の学力向上を保証するために、全ての教員がICTを効果的に活用した「わかる授業」を行うことが求められている。

そこで、春日部市視聴覚センターが行う教職員対象研修会の事例を紹介する。

2 研修のねらい

各校の情報発信、デジタル教材による本市教職員のICT活用を推進し、視聴覚教育、情報教育の振興を図る。

3 研修の内容

本研修は、勤務終了後の希望制自主研修会である。受講生（教職員）のICT活用のスキルアップを図るとともに、受講者が本研修で学んだ内容を各学校で広めICT活用の裾野が広がることも期待する。研修内容は、授業におけるICT活用の実際や、教材作成、校務の効率化を図る内容をバランスよく取り入れている。研修開催の情報は、視聴覚センターにより毎月各学校に配布する案内によって知らせ、教職員が興味のある研修を選択しFAX等で申し込む。研修の時間は、18:00～20:50であるが、長期休業中は、10:00～15:00に行う。

表5 教職員対象研修内容の例

研修名	案内に載せたコピー	研修の内容
ホームページ作成入門講座	ホームページビルダーを使用して、インターネット上で情報発信をしてみたいという方々が対象です。学校HP作成担当者の皆さんも歓迎します。	【講義】ホームページの基本 ・ホームページのしくみと管理 ・ホームページの設計 ・ホームページの作成 ・サーバへの転送 【演習】ホームページビルダーによるホームページ作成   講義のあと、実際に自分の学校のホームページを作ってみた。
ビデオ撮影基礎講座	デジタルビデオカメラを使っている、なかなか撮影がうまくいかないと感じたり、もう1ランク上の映像を映してみたいと考えている人が対象です。	【講義】ビデオ撮影の基礎技術および編集の基礎理論 ・カメラの基本操作 ・画面構成の方法 ・様々なカメラワーク ・「望遠」と「アップ」の違い ・編集を前提とした撮影のコツ など 【演習】撮影実習（スタジオ） ・光の効果的な使い方

ビデオ編集 入門講座	デジタルビデオカメラを使っていて、ビデオ編集を始めてみたいと考えている人が対象です。デジタルビデオカメラからのパソコンへの取り込み、簡易編集、パソコンを使ったビデオ編集の初歩を学びます。学期末の学年集会や、保護者会に活かします。	【講義】 ビデオ編集に関する基礎的内容 ≪理論編≫ ・ビデオ作品の企画 ・ビデオ撮影の基礎 ・パソコンによるビデオ編集の基礎 ≪操作編≫ ・ビデオ編集の基本的な流れ ・ビデオカメラとパソコンの接続 ・動画等の取り込み ・基本的な編集作業の実際 ・データの保存 【演習】 ビデオ編集の体験 【評価】 作品発表
教職員表計算入門研修会	エクセル2007(表計算ソフト)の入門講座です。基本的な使用方法や作業の進め方、使いやすいシートの作り方、式や関数の使い方、グラフの書き方やワードとの連携等を、実際にエクセルを使いながら研修します。	【講義】 表計算ソフトとは ・表計算ソフトができること ・ワークシートについて 【演習①】 エクセルの基本操作・画面構成を理解するための演習 ・時間割を作ってみよう 【演習②】 よく利用される関数 ・数式の入力 ・関数の入力 ・いろいろな関数
ビデオ編集 入門 (長期休業中)	ビデオ編集に関する基礎的内容を学んだあと、ビデオ編集の実習をします。学校行事、研究授業の記録等に活かします。	【講義】 ビデオ編集に関する基礎的内容 ≪理論編≫ ・ビデオ作品の企画 ・ビデオ撮影の基礎 ・パソコンによるビデオ編集の基礎 ≪操作編≫ ・ビデオ編集の基本的な流れ ・ビデオカメラとパソコンの接続 ・動画等の取り込み ・基本的な編集作業の実際 ・データの保存 【演習①】 撮影実習（スタジオ） 【演習②】 ビデオ編集の体験 【評価】 作品発表
プレゼンテーション入門・教材作成 (長期休業中)	パワーポイント2007の使い方や教材作成の基本・アニメーション効果のつけ方等を実習します。 授業に活かしてみたいと思っているが、方法がわからないという方が対象です。	【演習①】 パワーポイント2007における、教材作成の手順や留意事項 ・パワーポイントで行う教材作成 ・スライドの作成 ・アニメーション ・練習（アニメーション・図のコピー・アニメーションの軌跡・ナレーションの録音） 【演習②】 教材作成 ・実際に教材を作ってみる
デジタルカメラ入門講座	「デジタルカメラは持っているが、なかなか上手に写真が撮影できない。もう1ランク上の写真を撮影し	【講義】 デジタルカメラの撮影に関する基礎的内容 【演習】 構図や光を効果的に活用する方法

	たい。」と考えている人が対象です。構図や、光を効果的に活用して写真撮影する方法を学びます。	
		講義のあとスタジオに移動してライティングの基礎を学んだ。
電子黒板・デジタル教科書活用入門①	パソコンやＩＣＴについて、「ちょっと苦手だなあ」と感じている方々が対象です。電子黒板やデジタル教科書を実際に操作します。「授業のどのような場面で使うのが効果的か？」についても演習します。	【演習①】ＩＣＴ機器に関するの情報提供および電子黒板を利用するための準備と電子黒板等の種類と活用 【演習②】電子黒板・デジタル教科書の活用 
		電子黒板の種類と活用について学んだあと、電子黒板を使った模擬授業を行った。
音楽づくり入門研修会	各学校のコンピュータ室に導入されている、ジャストシステム社の「ジャストスマイル」の中にある音楽作成ソフトを使ったことがありますか？楽譜があればマウスで音符を入力して自動演奏をさせることができます。	【演習①】音楽自動演奏とその方法 ・シンガーソングライターJを起動する ・シンガーソングライターJの画面 【演習②】シンガーソングライターJによる作品制作 ・ヘッドセットの調整 ・メロディを作ってみましょう ・作ったメロディを演奏してみましょう ・作ったメロディを保存しましょう ・自宅でできる簡単音楽ソフト
ワード・一太郎使い分け研修会	利用頻度の高い２つのワープロで、同じ作業を平行して行いながらそれぞれの特長を確認し特性を生かした使い分けができるようにします。	【演習①】各ワープロの機能や特徴・操作 ・ワードの特徴 ・一太郎の特徴 ・MS-IME ・ATOK 【演習②】図の貼り込み、罫線引き、表作成、差込印刷など、特性を生かした使い分けの体験
電子黒板・デジタル教科書活用入門②	今回はデジタル教科書の活用がメインです。教科書会社さんにデジタル教科書のデモンストレーション及び最新情報をプレゼンしていただく予定です。	【演習①】電子黒板やデジタル教科書の使い方 【演習②】電子黒板やデジタル教科書の操作 
		デジタル教科書活用について学んだあと、電子黒板とデジタル教科書を使った模擬授業を行った。

デジタルカメラ活用研修会	Windowsフォトストーリー(フリーソフト)を利用し、デジカメ写真を素材にして、スライドショーを作る実習をします。学期末の学年集会や、保護者会に活かします。	【演習①】 Windowsフォトストーリーにおける、スライドショー作成の手順や留意事項について 【演習②】 スライドショーの作成 ・学校でできる動画編集 ・フォトストーリーの起動 ・画像のインポート ・画像にタイトル挿入 ・BGMの挿入 ・ストーリーの保存 ・DVDへの書き込み
--------------	---	--

4 研修の成果

本研修は勤務終了後の18:00から20:50までということもあり、参加する教職員は高い意欲があり目的意識を持って参加している。また、研修の内容が実務に直結しているため、研修を受けた翌日から授業で使えるスキルを身につけることができる。受講生からは、「電子黒板を使ってわかる授業を行った」「プレゼンテーションソフトで教材作成をして授業で活用することができた」という感想が挙がった。

5 今後の課題

- ・受講生の満足度は高いが参加人数が定員に満たない場合がある。本研修の内容やその効果について さらに広く広報する必要がある。
- ・受講時間を短くし終了時刻を早めることによって、より多くの教職員が参加できるようにする。
- ・受講後の教職員の授業のやり方や業務についてアンケート等で検証し、よりよい研修に改善する。

(埼玉県春日部市視聴覚センター指導主事 鷲林潤壱)

1 はじめに

映像は、視聴者のイメージを大きくふくらませ、新しい発見をさせる。また、素晴らしい映像作品を創造することは、市民の生きがいにもつながる。そこで、春日部市視聴覚センターでは、映像の撮影から映像作品制作、作品発表までの系統性を持たせた講座を実施し、映像制作の楽しさを広めることにより市民の生涯学習推進を図っている。

2 研修のねらい

初心者を対象としてデジタルカメラやビデオ機器の基本的な操作を習得させ、映像作品制作に慣れ親しませる。また、パソコンを活用したビデオ編集の基本的な技術を習得させ、映像作品を制作することを通して、視聴覚教育の振興を図り、あわせて映像素材の撮影協力員（春日部市ビデオ特派員）の育成を図る。

3 研修の内容

本センターでは、研修・学習センターの機能として、「市民映像セミナー」、「市民パソコンセミナー」を年間を通して実施している。講座開催の情報はセンターのホームページや市の広報紙に掲載され、市民は自分に合った講座を選び申し込む。「市民映像セミナー」は年間6講座（計21日）を実施し、視聴覚教育の振興を図っている。

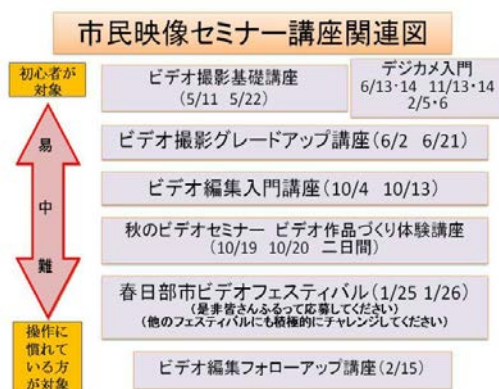


表6 「市民映像セミナー」、「市民パソコンセミナー」内容の例

講座名	講座のねらい	講座の内容
デジタルカメラ入門講座 (半日)	初心者を対象としてデジタルカメラ機器の基本的な操作を習得させ、画像作品制作に慣れ親しませる事を通して、視聴覚教育の振興を図る。	【講義】デジタルカメラの基本操作 ・デジタルカメラの特徴 ・いろいろなデジタルカメラ ・ユーザーガイドを確認しよう ・実際に撮影してみよう ・上達のポイント など 【演習】デジタルカメラの基本操作 【実習①】撮影準備・撮影実習  スタジオで撮影実習を行う。 【実習②】パソコンへの読み込みとデータ保存、印刷等 ・写真の保存 ・写真の確認 ・写真の印刷
ビデオ撮影基礎講座 (1日)	初心者を対象としてビデオ機器の基本的な操作を習得させ、映像作品制作に慣れ親しませる事を通して、視聴覚教育の振興を図り、あわせて映像素材の撮影協力員の育成を図る。	【講義】ビデオカメラの基本操作 ・カメラの基本操作 ・画面構成の方法 ・様々なカメラワーク ・「望遠」と「アップ」の違い ・編集を前提とした撮影のコツ など 【演習】ビデオカメラの基本操作 【実習①】撮影準備・撮影実習（基本の技法・課題にそって）

		 グループに分かれて撮影実習を行う。各グループの指導は「ビデオ特派員」が行う。雨天の場合はスタジオで撮影実習を行う。 【実習②】撮影実習(効果的で見やすい撮影、つながりも含めて) 【評価】作品発表とアドバイス
ビデオ撮影グレードアップ講座 (1日)	視聴覚センターが実施する「ビデオ撮影基礎講座」修了程度のビデオ愛好家を対象に、ビデオ機器の特性並びにやや応用的な撮影技術を習得させ、映像作品制作に習熟させる事を通して、視聴覚教育の振興を図り、あわせて映像素材の撮影協力員の育成を図る。	【講義】ビデオカメラの基本操作・撮影技法の基礎 《理論編》 ・「マニュアル操作」を上手に活用しよう ・フレーミングと構図 ・カメラワークをマスターしよう ・光を効果的に使おう ・カットのつながりを考えた撮影 《実践編》 ・美しい映像作りのための技法 ・撮り方の実際(ケース別ポイント) 【実習】撮影準備・撮影実習  撮影に出かける前にマニュアル撮影を試してみる。  グループに分かれて撮影実習を行う。各グループの指導は「ビデオ特派員」が行う。イベントの撮影のしかたについて実習した。 【評価】作品発表とアドバイス
ビデオ編集入門講座 (1日)	初心者を対象としてパソコンを活用したビデオ編集の基本的な技術を習得させ、映像作品制	【講義】ビデオ編集のしくみと製作手順 《理論編》 ・ビデオ作品の企画 ・ビデオ撮影の基礎

	作に慣れ親しませる事を通して、視聴覚教育の振興を図り、あわせて映像素材の撮影協力員の育成を図る。	・パソコンによるビデオ編集の基礎 《操作編》 ・ビデオ編集の基本的な流れ ・ビデオカメラとパソコンの接続 ・動画等の取り込み ・基本的な編集作業の実際 ・データの保存 【実習①】ビデオ編集ソフトの基本操作等 【実習②】編集作業の実際、タイトル等の挿入 【評価】作品発表
ビデオ作品づくり体験講座 (2日)	ビデオカメラを持つ市民は多いが、その大半は「家族を撮影する程度の経験はあるが、映像を作品としてまとめたことはない」というレベルである。そこで、撮影から作品づくりまでを1つの講座として実施し、ビデオ作品づくりのおもしろさを体験できる機会を提供する。併せて、毎年実施する「春日部市ビデオフェスティバル」への出品者の開拓を進める。	ビデオ撮影から編集までを2日間で体験。構想の立て方、撮影技術の基礎、編集の基礎、作品の仕上げまでを行う。 1日目 【講義】構想づくり・制作計画の立案 【実習①】撮影（施設外撮影実習含む） ビデオ撮影基礎講座と同程度の内容 2日目 【実習②】ビデオ編集ソフトの基本操作、編集作業 【実習③】編集仕上げ（タイトル等の挿入） 【評価】作品発表・講評 ビデオ編集入門講座と同程度の内容
ビデオ編集フォローアップ講座 (1日)	本センターのビデオ編集入門講座等を本年度受講し、パソコンを活用したビデオ編集の基礎を習得した受講生を対象に、学んだ知識や技術の定着を図ることを目的とする。	【講義】ビデオ編集ソフトの活用（応用） 【実習】編集作業の実技 【評価】作品発表・講評

4 研修の成果

(1) ビデオフェスティバル（発表の場）につながる学びの系統性について

春日部市では、毎年1月に「春日部市ビデオフェスバル」を実施している。市民映像セミナーでビデオ撮影・編集を段階的に学び、ビデオ作品を制作した後に作品発表の場を提供している。第1部「作品発表会の部」の出品者の多くは、これまでの市民映像セミナーの受講生であり、本セミナーが市民の生涯学習推進に大きく寄与している。



ビデオフェスティバル第1部「作品発表会の部」では、21作品が上映された。（第1部では審査は行わない）



ビデオフェスティバル第2部「映像コンテストの部」では、51作品の応募があり、春日部市長賞をはじめとする各賞が授与された。作品上映後に表彰式が行われた。

(2) 学びを継続させる「フォローアップ講座」の実施

本センターのビデオ編集入門講座等を本年度受講し、パソコンを活用したビデオ編集の基礎を習得した受講生を対象に「ビデオ編集フォローアップ講座」を実施している。それぞれが苦手な技術について個別に課題を設定し、年度の終わりに学び直すことにより、学んだ知識や技術の定着を図り、市民がビデオ編集を継続していくきっかけを作る。受講生のアンケートでは100%の受講生から「わかりやすかった」との評価を受け、「一つでも多くの作品を作って腕を上げたい」「この講座を継続してもらいたい」という感想が寄せられた。

5 今後の課題

- ・映像記録・編集に関する技術を積んだ市民に対し、春日部市にはビデオ特派員制度がある。ビデオ特派員は、春日部市視聴覚センターが実施する各種事業への協力・支援活動を行っている。これからも市民映像セミナーで力を付けた市民にビデオ特派員を委嘱し、各種事業への協力・支援活動を依頼していく。
- ・ビデオ編集ソフトウェアは高価である。視聴覚センターに講座を受けた市民が自由に練習ができる場を作ってほしいという要望もある。今後は、市民に開放している体験パソコンを対象にビデオ編集ソフトウェアを導入することを検討したい。

（埼玉県春日部市視聴覚センター指導主事 鷲林潤彦）

1 はじめに

高度情報化社会が進展している現在にあつて、ネット依存がクローズアップされているように、人と人との心のふれあいといったコミュニケーションの希薄化が問題視されている。反面、SNSに代表されるソーシャルメディアは、地域ネットワークやコミュニティづくりに強力なツールともなりえる。ソーシャルメディアが時間的・距離的要因を超え、地域と地域をつないだり、地域内の絆を深めたりするデジタル・ツールとなる可能性がある。ソーシャルメディアが地域活性化をもたらすこともありえるだろう。それゆえ、ソーシャルメディアを研修対象とすることは、これからのネットワーク社会にあつて、大いに価値のあることである。

そこで、高度情報化社会におけるツールの光の側面として、ソーシャルメディアを研修の対象として取り上げている「新潟県立生涯学習推進センター」の事例を紹介する。事例では、SNSの利用に伴うリスクといった影の部分にも触れながら、ネットワーク社会の教養ともいえるマナーを身につける工夫が随所になされている。



2 研修のねらい

情報化の進展に対応した生涯学習の推進を目指し、地域ネットワークやコミュニティづくりのため、積極的にSNSなどのソーシャルメディアを活用していく担当者・指導者及び県民を育成する。

3 研修の内容

新潟県立生涯学習推進センターでは、メディア研修会として、前・後期各7回（計14回）の研修講座を実施している。その中からソーシャルメディアに関連する講座をピックアップすると、下記ようになる。2回目の講座は6時間単位で、その他の講座は各回とも3時間単位で行われている。

表7 ソーシャルメディアに関する研修プログラム

No	研修テーマ・ねらい・時間	研修内容
1	「知っておくべき人権に配慮した情報モラル・情報セキュリティ」 ＜3時間＞ ・実際にあった情報漏洩事例、情報セキュリティポリシーの大切さ、情報モラル等について研修し、啓発していく知識技能を習得する。	【講義】○個人情報漏洩事例 ○セキュリティ啓発ビデオ、教材の視聴 ○SNSの利用に伴うリスクと対策 ○スマートフォン・タブレット端末の使用について 【演習】○セキュリティに関する情報交換 ○セキュリティ緊急時対応訓練のシナリオづくり
2	「プレゼンテーション作成・操作の基礎研修」 ＜6時間＞ ・プレゼンテーションソフトの操作方法を学習し、プレゼンテーション資料の作成や掲示のための基礎的な技能を習得する。	【講義】プレゼンテーションの構成、分かりやすいプレゼンとは 【実技①】プレゼンテーションソフトの実際の操作練習 ・スライドの作成、図・画像の挿入、表やグラフの作成、アニメーションの設定等 【実技②】各自のテーマによるプレゼン作成 【演習】プレゼン発表会
3	「動画配信サービスの利用、USTREAM 設定・操作の基礎研修」 ＜3時間＞ ・インターネットを使った動画配信サービスの特性について学び、実際にUSTREAM配信についての登録から発信までを体験することを通して、動画配信に関する技能を習得する。	【講義】○USTREAM・YouTubeなどの動画配信サービスの特性及び有効性 ○留意すべき著作権や肖像権など、公開に関する情報モラル 【演習】○USTREAMアカウントの取得 ○配信のためのパソコン等各種設定 ○配信番組の構成・準備 ○YouTube、NHK デジタル教材の活用

4	「地域ネットワークやコミュニティづくりのためのSNS活用研修」 ＜3時間＞ ・インターネットを使った各種SNSの特徴及び動画配信について研修し、事業などの情報を発信していく技能を習得する。 ・情報発信において遵守すべき著作権や情報モラルの基礎を習得する。	【講義】○SNSの主な種類と活用について ・フェイスブックの特性及び有効性 ・ツイッターの特性及び有効性 ・Google+の特性及び有効性 ・スカイプの特性及び有効性 ・LINEの特性および有効性 【演習】○ツイッターの実際 ○Google+の実際 【講義】○留意すべき著作権や肖像権など、公開に関する情報モラル
---	---	---

4 研修の成果

(1) 研修プログラムの系統性について

新潟県立生涯学習推進センターのメディア研修会の一つの特徴は、受講者が必要課題やメディア操作スキルの程度に応じて講座を選択できるメニュー方式があげられる。また、講義や実習・演習などの様々な学習形態を組み合わせることで研修プログラムを構成している。したがって、ソーシャルメディアに関して初心者を受講生が、連続して講座を受講する場合、講義を聴講したり実習・演習を体験したりして、ステップアップすることが想定される。たとえば、コンピュータ操作に不慣れな受講生が、第2回の「プレゼンテーション作成・操作の基礎研修（1日日程）」を受講すれば、コンピュータ操作の基礎技能を習得するとともに、他者とのデジタル・コミュニケーションで必須であるプレゼンテーションの基本を理解することができる。その上で、第3回の「動画配信サービスの利用」や第4回の「SNS活用研修」のデジタル・コミュニケーションの応用講座を受講するという系列になる。

新潟県立生涯学習推進センターにおける上記の各回の講座後のアンケートでは、「内容は自分のレベルに合っていたか」という項目で、ほとんどの受講生が肯定的な評価（「大変良い」「良い」）であった。研修講座のメニュー方式の長所や各講座間の系統性が生かされた結果となっている。

(2) 研修プログラムの有用性について

研修プログラムの効果は、研修のメディア環境にも左右されることがある。新潟県立生涯学習推進センターでは、平成25年度にメディア環境の更新・整備を行った。その一例として、ノート・パソコン（以後PC）とタブレット端末（ipad）を配置している。第3回の「動画配信サービスの利用、設定・操作・活用研修」講座では、動画配信はノートPCで、動画視聴はタブレット端末と、メディア機器を使い分けて活用している。その効用で、「受講者全員が、PC内蔵のWebカメラによる動画配信、タブレット端末を利用したライブ配信を行うことができた」としている。

また、第6回の「SNS研修」講座では、「緊急のお知らせ、行事の一コマ（写真付き）など、具体的な情報発信の場を設けてSNSを利用した投稿の実習」を行っている。実習を通して、メディア操作スキルの習得やSNSの仕組みについて体験的に理解することができる。

研修実施後のアンケート「研修したことは今後の仕事に活用できるか」という項目では、各講座で肯定的な評価がほとんどであった。受講生が有用性を感じる研修が各回において行われたと言える。



5 今後の課題

新潟県立生涯学習推進センターの受講生は、教育委員会生涯学習課・視聴覚ライブラリー・公民館・美術館等の生涯学習施設職員、並びに小中学校・高校教員といった学校教育職員が多い。講座に参加することで、人的な県内地域ネットワーク・コミュニティを形成することができる。この特性を生かし、集合型研修で学習したことをさらに発展できるよう、ソーシャルメディアの機能を活用してフォローアップ研修を実施するといった形態も考えられる。地域ネットワーク形成を目指して、より実用的な研修になるよう on the job training 型の研修を志向することも、今後の課題としてあげられる。

（新潟県五泉市立五泉東小学校教頭 丸山 裕輔）

1 はじめに

映像は文化であり、未来を切り拓く遺産ともいえる。貴重なアナログ映像をデジタル化する試みが全国各地で行われている。また、地域を活性化する上でも、地域映像が脚光を浴びている。しかしながら、急激なメディア環境の進展にあって、逆に地域映像が失われていくことも危惧されている。

そこで、地域映像に着目し、デジタルアーカイブ化を推進しようとしている新潟県立生涯学習推進センターの研修事例を紹介する。



2 研修のねらい

地域映像とそのアーカイブ化の意義、今後の活用の方向性等について理解を深め、静止画・動画の作成・加工の体験を通して、地域に立脚したデジタル・アーキビストとしての素養を育成する。

3 研修の内容

新潟県立生涯学習推進センターでは、メディア研修会として、平成 25 年度に前・後期各 7 回（計 14 回）の研修講座を実施している。その中から地域映像デジタルアーカイブに関連する講座をピックアップすると、下記ようになる。1 回目の講座として、平成 24 年度に実施された特論（講演会）を組み込み、プログラムを構成し直し紹介する。1 回目と 4 回目の講座の研修は、2.5 時間、3 回目の講座は 6 時間、その他の講座は各回とも 3 時間単位で行われている。

なお、講演会となる 1 回目と 4 回目の講座の講師は、それぞれ大学教授で専門家たる外部講師を招聘している。

表 8 地域映像デジタルアーカイブに関する研修プログラム

No	研修テーマ・ねらい・時間	研修内容
1	「特論『地域映像アーカイブの意義と今後の活用の方向』」 ＜2.5 時間＞ ・地域映像アーカイブの意義や期待される効果、地域視聴覚ライブラリーの関係団体の関わり方などについて理解を深める。	【講義】 ○講演会 ・地域映像アーカイブの意義 ・今後の活用の方向、等 【情報交換】 ○質疑・応答
2	「パソコン（PC）による画像加工・フォトムービー作成基礎研修」 ＜3 時間＞ ・PC を使って静止画像のトリミング・リサイズなど画像加工に関する技能を修得する。 ・PC を使ったフォトムービー作成に関する技能を習得する。	【講義】 ○静止画教材の資料の特性 ○静止画の画像形式 【演習①】 ○PC を使った画像加工 ・画像処理ソフトを使った画像加工 ・プレゼンテーションソフトを使った画像加工 【演習②】 ○PC を使ったフォトムービー作成 ・動画編集ソフトを使ったフォトムービー作成 ・各自作成
3	「ビデオ編集ソフトを使った DVD 作成研修」 ＜6 時間＞ ・イベント記録や教材 DVD 作成のためのビデオ素材を PC に取り込んだり PC 上でビデオ編集を行ったりする実技を通して、ビデオ編集の基礎的な技能を習得する。	【講義】 ○自作ビデオ作品の重要性とその利用 ○ビデオ編集と著作権 ○参考作品視聴 【実習①】 ○ビデオ編集ソフトを使った作成練習 ・PC へのビデオ素材の取込 ・ビデオ素材からのムービー作成 【実習②】 ○各自のビデオ編集・DVD 作成 ・テロップやタイトルの作成 ・BGM の挿入

		・DVD ディスクへの書き出し
4	「特別講演会『映画は国境を越えるか?』」 <2.5 時間> ・近年、映像を手がかりに文化や歴史に触れることへの社会的関心が高まっている現状を踏まえ、映像と学びのあり方について学習する機会を設け、地域の文化や人々の暮らしに関わる映像制作・上映活動の楽しさや素晴らしさについての理解を深める。	【講義】 ○講演会（前半） ○上映会 ○講演会（後半） 【情報交換】 ○質疑・応答
5	「地域映像やデジタルアーカイブの意義・利用方法」 <3 時間> ・地域映像やデジタルアーカイブの意義、関係機関の取組状況等について研修し、地域映像やデジタルアーカイブの利用方法を体験する。	【講義】 ○地域映像、デジタルアーカイブの意義 ○資料のデジタル化に取り組んでいる図書館、大学等の事例 ○地域映像が記録された自作映像教材の価値とその活用 【演習①】 ○新潟大学地域映像アーカイブの利用 ○新潟県立図書館デジタルライブラリー、国立国会図書館デジタル化資料の利用 ○新潟県立生涯学習推進センター視聴覚教材の利用 【演習②】 ○NHK クリエイティブライブラリーを使った簡単な作品作り体験

4 研修の成果

(1) 研修プログラムの構成について

上記の研修プログラムは、平成 24 年度・25 年度に実施されたメディア研修会を、デジタルアーカイブに焦点を当て構成してみた。最初に特論（第 1 回）で、地域映像アーカイブの意義と活用について聴講し、静止画や動画の作成・加工の実習（第 2 回・第 3 回）、そして映像制作に関する講演会（第 4 回）、デジタルアーカイブの利用法（第 5 回）という研修の流れになる。概論から実習へと体験して学び、映像づくり活動後に再度講演で学ぶという往還サイクルになっている。

各講座後のアンケート項目「講義や実技研修の進め方は良かったか」では、ほとんどの受講生が肯定的評価をしている。研修プログラムの構成の妙が反映された結果といえるだろう。



(2) 研修プログラムの有用性について

特別講演会（第 4 回）では、全国視聴覚教育連盟の講師派遣制度を有効に活用し、大学教授を招聘している。受講者からは、「講師の映像制作に関わる思いや姿を通して、映像制作が人々の文化交流を推進する力になっていることが実感できた」という感想が出されている。

また、各講座後のアンケートでは、「研修したことは今後の仕事に活用できるか」という項目において、すべての受講生が肯定的な評価であった。指導者であるセンター職員の講座企画力や運営力が十分に発揮された結果である。

5 今後の課題

全国各地にある視聴覚ライブラリー・センターは、地域映像の宝庫ともいえる。また、メディア環境を利用し、映像のデジタル化・アーカイブ化の推進役を担っていく。

しかしながら、デジタル・アーカイブ化には専門的な素養が必要となってくる。本事例では、地域視聴覚ライブラリー・センターの職員が受講生となって、知識・技能を習得している。地域視聴覚ライブラリー・センターを巻き込んだ研修の取組を進めていくことが、今後の課題の一つである。また、本事例のように、全国視聴覚教育連盟や大学、専門機関との連携を図っていくことも大切であろう。

（新潟県五泉市立五泉東小学校教頭 丸山 裕輔）

研修モデルの紹介「モバイルメディアに関する研修プログラム」

1 研修モデルのねらい

情報化の進展に対応した日常的なメディアリテラシーに関する一般市民向けの研修を展開し、モバイルメディアを活かし日常生活に潤いを持たせる。

2 研修モデルの内容

モバイルメディアを対象とした研修プログラムを想定すると、次の表9のようになる。

表9 モバイルメディアを活用した映像の楽しみ方

No	研修テーマ・ねらい・時間	研修内容
1	「テーマを意識した撮影」 < 2 時間 > ・スマートフォン、タブレット端末のカメラ機能を生かした静止画、動画の撮影をする。 ・撮影技能を高める。	【実技と演習】 ○カメラの起動 ○グリッド表示、HDR 機能、パノラマ撮影 ○フラッシュ発光（自動、オン、オフ） ○ズームイン、アウト ○露出とフォーカスの固定 ○カメラロールの確認
2	「保存とアルバム作成」 < 2 時間 > ・撮影した画像を編集し、ねらいに合った作品を作る。 ・編集等の操作方法を学習し、基礎的な技能を習得する。	【実技と演習】 ○アルバムの作成 ○画像の取り込みとコピー ○写真の編集（トリミング、赤目修正） ○フォルダーの作成 ○拡大、縮小、回転 ○バックアップの保存
3	「編集と調整」 < 2 時間 > ・ねらいやテーマに合う作品を構成し、編集技能を高める。 ・編集ソフトを生かして、作品を仕上げる。	【実技と演習】 ○貼り付け、並び替え、サイズ変更 ○露出、ノイズ、色の調整 ○音楽の選択 ○文字入力 ○演出効果の工夫 ○スライドショーの構成
4	「評価と発表」 < 2 時間 > ・作品の発表をする。 ・評価（自己評価、相互評価） ・発表会	【実技と演習】 ○スライドショーの完成 ○デジブック、フォトギャラリーの作成 ○作品の保存と発表 ○発表方法の工夫、演出

（全視連副専門委員長 照井 始）

Ⅲ 調査研究のまとめ

今日、地域社会における ICT 環境の整備が進み、インターネットをはじめ地上デジタル放送、モバイルメディアの普及によるメディア利用の多様化が定着し始めている。また、教育におけるメディア利用の視点から見ると、一般社会はむしろ学校教育及び社会教育等においても、インターネット等を通じての映像コンテンツの利用が日常化し、積極的な活用が始まっている。

全視連は、「ICT 化時代に対応したメディア利用」をキーワードに、従来の視聴覚メディアを大切にしつつ、ICT を活用した映像コンテンツ提供や学習機会の提供、教育メディア研修等を推進し、時代に対応した視聴覚センター・ライブラリーの活性化支援を行う必要性を強く感じている。そのため、時代に対応した ICT 利用やメディア研修の推進、映像コンテンツのデジタル化支援、組織間ネットワークの新たな構築等を目指してきた。

視聴覚教育の研修については、昭和 48 年 4 月に当時の文部省が、国、都道府県及び市町村の各段階において「視聴覚教育研修」が体系的にかつ効果的に実施されるよう、「視聴覚教育研修カリキュラム」を示した。

その後、新たな機器の開発・普及やメディアの統合化が進むなど、視聴覚教育を取り巻く情報環境に変化が生じてきた。また、昭和 62 年 12 月の教育職員養成審議会の答申を受け、教育職員免許法が改正され、教職に関する専門教育科目の中に「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）に関する科目」が設けられ、平成 2 年度入学者から適用されている。さらに、教育公務員特例法が改正され、現職研修の改善として初任者研修の項が追加され、年間研修項目例に、「教科指導と教育機器の活用」、「教育機器の利用」及び「教材・教具の作成と活用の仕方」等の視聴覚教育関連の項目が挙げられている。

これらの新たな教育課題への対応として、視聴覚教育指導者としての資質、能力の育成を目的とした研修内容の改善が必要となった。

平成 2 年 6 月、社会教育審議会教育メディア分科会から「視聴覚教育メディア研修カリキュラム標準案について」が報告され、当時の文部省は、平成 4 年 3 月に従来の標準を廃し、新しい教育メディアに対応できる内容の「視聴覚教育メディア研修カリキュラムの標準」を定め、通知した。この標準により、視聴覚センター・ライブラリーが実施する研修が、従来の視聴覚機器の活用からパーソナルコンピュータを活用した幅広い学習機会が可能になり、通信やデータベースの活用も視野に入れたメディア研修が実践されてきた。

しかし、この研修カリキュラムの標準からすでに 20 年以上も経過し、ICT 化時代のメディア利用の現状を考えると、時代に対応した視聴覚センター・ライブラリーの活性化支援をする上でも今日的なメディア研修の必要性を強く感じている。

そこで、全視連創立 60 周年にあたり、ICT 利用のメディア研修の推進を促す視点から、全視連専門委員会として調査研究を進めてきた。

ここに ICT 化時代に対応したメディア活用研修のモデル事例を紹介する。

今回の調査研究では、千葉県、埼玉県、新潟県の好事例を中心に取りまとめている。

千葉県の事例では、ICT 機器・教材の有効活用に焦点を当て、電子黒板、タブレット PC、iPad などの活用とデジタルコンテンツの活用などをテーマとしている。

最新の ICT 機器の有効活用を通して、メディア情報リテラシーを学習する内容となっており、メディア教育と ICT 活用の実践事例として紹介した。

埼玉県の事例では、教職員が ICT を効果的に活用した「わかる授業」の実践に向けた研修事例を紹介している。デジタル教材による ICT 活用のプログラムは専門性が高く、魅力的な内容となっている。また、市民向けの映像セミナーは、体系的に整った研修プログラムとなっており、市民の映像作品の発表の場となる「ビデオフェスティバル」に向けた支援事例としても魅力的である。

新潟県の事例では、ネット依存に関する課題に目を向け、SNS の利用など情報化の進展に対応したソーシャルメディアに関する研修プログラムが紹介されている。

また、全国の視聴覚センター・ライブラリーが課題と感じている地域映像のデジタルアーカイブ化に関する研修プログラムが紹介され、文化価値が高い地域映像のデジタルアーカイブ化の推進役を担う視聴覚センター・ライブラリーにとって役立つ事例となっている。

他に、現在普及が著しいモバイルメディアの研修プログラムを紹介し、高齢者等の日常に寄り添った仮想研修にも触れている。

今回のメディア活用研修モデル事例は、ごく一部の紹介にとどまっているが、全視連ではさらに役立つ事例が紹介できるよう、調査研究を深めていきたい。

（全視連副専門委員長 照井 始）

平成 25 年度 創立 60 周年記念 特別研究プロジェクト I
メディア活用研修モデル事例の調査研究

2014（平成 26）年 5 月 1 日

全国視聴覚教育連盟
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-19-5 虎ノ門 1 丁目森ビル
TEL 03-3591-2186 FAX 03-3597-0564
URL <http://www.zenshi.jp/>
23
